

2022 年度 公立大学法人北九州市立大学 学長業績評価 評価結果

優れた業績である

(評価段階) 特筆すべき顕著な業績である ・ 優れた業績である ・ 良好な業績である
不十分な業績である ・ 業務全般に重大な改善事項がある

総 評

- 大学を取り巻く社会環境において、新型コロナウイルス感染症が継続し、従来の大学運営の考え方や方法を劇的に転換せざるを得ない中、的確な対応により大きな混乱もなく大学運営を行い、中期計画を順調に実施するなど、学長としてリーダーシップを発揮した。また、SDGs 活動の推進、データサイエンス教育の開始、将来構想検討会の実施、ダイバーシティ推進体制の構築など、大学が目指す方向を明確に示したことは、高く評価できる。
- 前回の学長業績評価結果の指摘事項に対し、学長のリーダーシップの下、教職員一丸となって誠実に取り組んできた。教育、研究、社会貢献、管理運営において、いくつかの課題は残るものの、総じて「期待する成果」を上回る成果を残してきた。
- **教育分野**について、依然として大学院の定員充足の課題が残るものの、遠隔授業の積極的導入、教育改革推進室と IR 室の統合、学生支援体制の拡充、データサイエンス教育・リカレント教育の推進など、将来に向けて重要な文理融合の視点を持ち、大学教育改革を本格的に推進するための基盤を構築し、着実な成果が見られた。
- **研究分野**では、文部科学省の共同利用・共同研究拠点及び科学技術振興機構（JST）の次世代研究者挑戦的研究プログラムの採択により、挑戦的・融合的な研究を推進する研究環境の整備や、産学連携の基盤作りが進んだ。学長のリーダーシップの下、大学として進むべき方向を示し、学長選考型研究プログラムなどで各分野の教員の力を結集できる研究テーマを設定するなどの貢献は、高く評価できる。今後、総合大学の強みを生かした文理融合型研究などへの展開を期待したい。
- **社会貢献分野**について、SDGs の一層の推進、コロナ後を見据えた国際交流の準備、教育・地域振興に関する活動などにより、大学のプレゼンスを高めた。コロナ禍により、様々な側面で制限のある環境の中で、可能な取組を見出し尽力している。さらには、本学が中心となって市内 10 大学連携での新型コロナワクチン職域接種を行うなど、様々な分野で地域貢献を果たした。
- **管理運営分野**について、将来構想検討会を活用した教職協働、施設・設備（アジア国際交流ホール等）の拡充、ダイバーシティへの取組みなどを推進した。
- **その他活動**の面では、公立大学協会会長を務め、文部科学省や大学関係団体の枢要な役員として活動し、我が国の高等教育のために貢献するとともに、大学の顔として本学のプレゼンスの向上に努めてきたことは評価できる。